

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201645		
法人名	有限会社グループホームすだお		
事業所名	グループホームすだお		
所在地	長崎県佐世保市須田尾町18番1号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和6年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者本位の安全で快適な居住空間を提供致します
特に入居者の方の楽しみである、食事内容の充実には力を入れています
医療体制は、嘱託医による毎週の往診をお願いしており、夜間などの緊急時への対応や、状態の変化にも 対応をしていますので 安心してご利用頂けます
又日常の健康管理に関しても、看護師の配置により充実を図っています
入居に際しての、権利金、保証金、敷金、などはありません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、理念“利用者第一主義に徹します”の下、一人ひとりがその人らしく生活するために、明るく楽しいマイホーム作りを目指し、管理者と職員は、利用者の思いに寄り添い、自宅に居るときと同じ居心地の良さを感じられるよう支援に努めている。馴染みの人や場所で最期まで過ごす看取り支援が、昨年は多くあり、家族の安心に繋がっている。更に運営推進会議では参加者の意見や情報が多く、貴重な場となっている。利用者の一番の楽しみである食事は、専門の調理職員が季節の味、バランス、彩り等を考慮し品数も多く提供している。家族等に、2ヶ月毎に利用者の状況報告書を個別の写真を添えて郵送しており、日々の暮らしが把握できると好評である。玄関前の椅子に近所の人が一休みするなど、地域に溶け込み、利用者が穏やかにゆっくり暮らせる支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をみんなが目につくところに掲示し、共有しながら利用者の思いや要望をできる限り実現できるように務めている。	開設当初からの理念は、利用者第一主義に徹することを基に、利用者同士が支え合い、明るく楽しく笑い声が絶えないマイホーム作りである。職員は理念を共有し、その人らしく生活できるよう、思いに寄り添って支援している。誰もが理念を理解出来るよう玄関、事務所などに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響もあり児童センターからは手作りのプレゼントをいただくだけになっているが、昨年は近隣中学校から職業体験を受け入れている。	町内会に加入し回覧板を回し、清掃活動の参加や民生委員、近隣住民と日常的に交流している。中学生の職場体験、短大生の研修受入れも行っている。玄関前のテーブルで、新聞配達員が作業を行ったり、近所の人買い物が帰りに椅子で休憩するなど、事業所は地域に浸透している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々には当施設の存在は理解してもらっているが認知症のことなど伝えきれていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ5類移行後は会議の開催は出来ている。出席者からの意見を聞き良いサービス提供ができるように務めている。	年6回、奇数月に規定の参加者での開催である。事業所の状況、行事、研修、ヒヤリハット報告、参加者の意見交換等、詳細な議事録で確認できる。家族代表、民生委員や他事業所のケアマネジャーなど情報交換も多く、質疑応答を行い、意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請や手続き上の相談がほとんどとなっている。	介護認定や申請など市に出向き、相談や問い合わせ等は、メールやFAXで行っている。職員の訪問もあり、協力関係を築いている。市主催のユマニチュードや傾聴の研修、グループホーム協議会の看取り研修など受講している。また消防署での防火防災管理講習に参加し、情報収集に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開き、研修は年2回行っている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備し、身体拘束廃止委員会を年4回開き、内部研修は2回実施している。特にスピーチロックに注意し、抑圧感のないケアに繋げている。玄関の施錠は夜間のみであり、センサーや防犯カメラで安全対策を行っている。帰宅願望がある利用者には、ホーム周辺の散歩で気分転換を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は外部の虐待防止の研修に参加し、内容を他の職員に伝えたり、事業所内でも研修を行い、虐待防止に務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は青年後見人制度の研修を受け、昨年は実際に利用者が青年後見人制度を利用するに至っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に従い十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会で来訪したり、電話があったときには意見聞くようにしている。また、利用者からは日常生活の中で聞き取るようにしている。入居者の状態などは2ヶ月に1回の状況報告書を送っている。	前回の改善点であった苦情受付については家族に書面を送付し周知を図っている。家族に2ヶ月毎に利用者の状況報告書を個別の写真添えて送っており、日々の暮らしが把握できると好評である。また、面会時や電話で希望や要望を聞き取っており、これまでに服薬の量を減らしたいという要望があり、主治医に伝え対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者共に職員として勤務しており、業務の中で意見などを聞いている。また月1回の会議の中でも意見を聞く機会を設けている。	朝の申し送りや前日の報告や確認事項を伝え共有している。管理者も夜勤に入るなど共に働いており、職員の希望や意見を聞いている。これまでに希望を反映してエアマットを購入している他、外部研修受講には手当てを出すなど、職員が働く意欲が持てるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や休みの希望をできる限り聞いて働きやすい職場になっている。また職務内容によって処遇改善も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得に関しては積極的に推進しており、研修会への参加に関しても多少の援助と、優先的に受講が出来るような配慮をおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回GH連絡協議会ブロック会議に参加し、情報交換やアドバイスがあったり、3ヶ月に1回の他のブロックとの合同研修会に参加しサービスの向上に務めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談にて本人の希望や不安なことをしっかりヒアリングし、好きなTV番組の鑑賞や興味のある事が出来る環境作りを職員一同で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞き、介護サービスの内容を説明、理解いただき、本人と共に安心して生活できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在治療中や、これから必要になりそうな他科の受診も含め、入所前の医療機関からいただいたサマリー等参考に迅速に対応するよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片付けや洗濯物たたみ等手伝ってもらい「ありがとうございました。」と感謝を述べ協力体制を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナが5類感染症移行に伴い、細心の注意を払いながら、積極的に面談、外出を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望をご家族に伝え、できる限り実現できるよう支援に努めている。	コロナ第5類に移行後は、家族は自由に居室で面会している。家族と一緒に衣類の買い物に出掛けたり、親戚に会う機会を作っている。また、新聞を読んだり、ラジオで音楽を聴くなど習慣を大切に考えて支援している。馴染みの美容室に家族と出掛けたり、ピアスを付けている人もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	話の合う方を同じ食卓にして、穏やかに過 ごせるように支援している。また状態の変化 により上手くコミュニケーションが取れなくな ることもあるためトラブルにならないように席 を変えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	医療機関や介護施設等へ移られた後は、面 会に行ったりはしていない。看取りの場合は お通夜などに出席させてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、思いや希望を聞いたり、 会話が困難な方は表情や動作などで気 持ちを汲み取るように務めている。	入居前のサマリーを役立て、家族との繋がりなど を把握している。利用者によっては、自分の思い を積極的に伝える人もおり傾聴している他、難聴 の場合は、耳元で話してコミュニケーションを図っ ている。新しい情報は申し送りに記す他、日誌に 記録し職員間で共有し、支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人、家族とのアセスメントや関係 機関からの情報で生活習慣を把握し入所後 も生活や、家族からの情報を職員で共有し ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	介護日誌に記録し毎朝の申し送りで一人ひ とりの日々の過ごし方、心身の状態の把握 に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	日々の申し送りで職員と話し合いをし、医療 機関や家族と連携をとり月1回のケアカン ファレンスでモニタリングを行っている。現状 に合った計画を作成しケアプランと連動でき るように日誌のフォームも改善した。	介護計画は、長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標設定が ある。利用開始時の暫定プランは1ヶ月で見直して いる他、入退院後は、即時見直しを行っている。 毎月カンファレンスを行い、現状に即した介護計 画を作成し、生活日誌にプラン番号を記入する様 式に改善している。ただし、本人・家族の希望や意 向が、毎回同じ文言になっている。	本人や家族等から新たな要望を聞き取る ことができるよう検討、工夫し、現状での 希望や意向を反映した具体的な介護計画 の作成が待たれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づいたことを介護日誌 に記録し、毎朝のミーティングで対応を話し 合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望に対してご家族と連携を図ったり、できるだけ柔軟に対応できるよう務めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員や地域包括円センターの方と情報交換を行っている、また中学生の体験学習受け入れや、児童センターとの交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご家族の意向に沿いかかりつけ医かホームの協力医療機関にするかを決定している。眼科、歯科等受診は本人や家族の意向に沿い職員や家族が付き添っている。	現在、利用者全員の主治医は協力医療機関であり、定期的な往診がある。眼科、歯科などの他科専門医は必要に応じて、家族や職員が付き添っている。夜間緊急時は、職員が看護師に連絡し、看護師が主治医に連絡し指示を受けて、適切な医療を受けることができる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入浴時身体チェック表を記入したり、日々の中での気づきを看護師に報告している。看護師は主治医に連絡を行い、指示を職員に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室スタッフや病棟看護師と情報交換を行い、入退院時の対応を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への指針に基づきターミナルケアについて当施設の方針を説明し、「終末期の医療についての事前確認書」「当施設における医療体制の説明書」を作成しご家族の同意、署名をもらい状況に応じた対応を行っている。	昨年5件の看取り支援を行っている。契約時に終末期の医療についての事前確認書と医療体制の説明書を作成し、家族の同意、署名を得ており、看取り期に入ると再度、確認を行い対応している。ただし、重要事項説明書には事業所は終末期の介護は行わないとの記載がある。	医療行為を伴わない看取り支援についての対応など、文書の内容を精査し、家族の理解を深める取組が望まれる。また、看取り支援後の振り返りの実施、職員の精神的フォロー等も期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医に指示をもらい看護師と連携を図り処置をしている。病院受診があれば職員やご家族が付き添っているが。訓練やマニュアル化はなされていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練を行っている。非常食を備蓄し、更に停電時に備えポータブル電源も購入した。	年2回、消火、避難訓練を昼夜想定で行い、内1回は、消防署立会いである。訓練終了後の総括、反省点の考察や救助方法など受けている。今年度ポータブル電源を購入し、停電時に備えている。ただし、避難後の空室確認の方法や非常持ち出し品の整備など検討中であり、自然災害の避難訓練もこれからである。	利用者、職員の命を守るため、自主訓練の回数増に期待したい。また、避難後の空室確認方法の工夫、及び、非常持ち出し品の整備、自然災害の避難訓練の実施などの取組が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前は苗字で呼んだり、訪室時ドアの開閉等には必ず声掛けを行っている。利用者の中には耳の聞こえが悪い方や視力が悪い方もおられるので、話しかけるスピード、声の大きさ等利用者に合わせて対応している。	職員は、基本的に利用者を苗字で呼び掛け、同姓の場合は、名前で呼んでいる。事業所は同性介助に努めており、男性職員は、女性の利用者の入浴時には車椅子で脱衣室の前まで支援し、女性職員に交替している。表札や写真掲載は家族に同意書を得ており、個人情報のファイルは所定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をしていく中で本人の意向を聞いたり選んでもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとり性格もそれぞれ違い、生活リズム、ペースもそれぞれに合わせて支援を行っているが、職員の人数も限られており全てが本人の希望通りにはならないこともあるので、声をかけながら対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容師にカットに来てもらっている。髪型にこだわりのある方には、希望に沿って切っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後のお盆拭きや食器拭きはお手伝いをしてくれる利用者に声掛けを行い、手伝ってもらっている。月に1回程パン食を提供したり、行事があるときは行事食を提供している。	事業所の創設者の「食事は重要」という意思を引き継ぎ、主に調理専任の職員が調理し、毎食提供している。正月のお節、敬老会の仕出しは注文し日常と変わった楽しい時間となっている。ミキサー食、キザミ食にも対応し、誕生日にはケーキやプリンを手作りして祝っている。サンドウィッチやロールパンの日もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を行い、健康維持に気を付けている。水分補給は10時と15時のおやつの時、レクリエーションを行った後に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力を念頭にうがいや歯磨きを促し足りない部分を職員が介助している。できない方にも声掛けを行い介助している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	最もプライベートな分野の為、その人らしさを尊重し、生活のリズムに合った時間とやり方で変え懸けを行い安心できる環境の中で排泄ができるよう「支援をしている。	職員は排泄の自立を支援しており、自立している利用者もいる。居室にトイレ、洗面所を設置しており、職員が個別に対応している。夜間のみオムツを利用する人も日中はトイレでの排泄を支援している。パッドのサイズは本人に適したものを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の特性と状態を考慮した飲食物の提供を行い、合わせて排便を促すような体操への参加を呼びかけここにに応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は人員の都合で週2回程になって、入るタイミングもなんとなく決まって来ている。	以前は週3回の入浴支援であったが、現在は職員数等で週2回となっている。1対1での入浴は、利用者が昔話をして寛ぐ時間であり、急がないように職員が配慮している。寒さ対策としてヒーターを点け、浴室に湯気を溜めている。個人で保湿剤を持ってくる人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人らしさと希望を尊重し、生活リズムを崩さないレベルで昼の時間もベッド臥床や休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書をファイルにまとめ分からないときはすぐに確認できるようにしている。一人ひとりに合わせた服薬の仕方をし、誤薬防止として服薬前に他の職員にかくにんしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力を最大限に生かせるような役割を、できる範囲で行っていただき、個性と希望を配合したレクを全体、または個別に行っている。好きな飲み物の提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分転換の為、1対1で近所を歩くことがあった。家族と買い物や外泊、コンサートや髪カット等ご家族の協力のもと支援している。	天気のいい日は室内に外気に入れて気分転換を図っている。帰宅願望のある利用者には職員と一緒に散歩したり、落ち着くまで同行している。事業所には車両がないため、全員での外出はできないものの、家族の協力を得て、外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は本人が金銭の管理を行っている方はいないが、能力に応じてご家族と買い物に行かれる。それを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される場合は職員が電話をかけ、その後は自由に話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、加湿器、空気清浄機を適宜使用している。眩しいのでレースのカーテンをしているが、季節を感じられる、飾りつけをしたり、窓から花やクルーズ船が見えるときには話題を提供している。	2階のリビングは陽当たりも良く、眼下に港が見え、開放感がある。利用者が体操やテレビ鑑賞、おしゃべりする様子が覗える。調理の音や匂いが五感を刺激し、家庭的で穏やかな雰囲気である。掃除や換気も行き届き清潔で、児童センターから贈られた作品や季節の飾り付けで、季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々でテーブル分けをしたり、ソファや椅子の並べ方を工夫してくつろいでもらったり、一人で座れる居場所も確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物やキャラクターなど、好まれるものを飾ったり、テレビ、ラジカセなどを持ち込み、部屋で自由に過ごしていたく様配慮している。	居室は、ベッド、トイレと洗面台、クローゼットの設置があり、自宅から仏壇、整理棚、テレビ、ラジカセ、ぬいぐるみなど馴染みの品を持ち込んでいる。壁には毎年の誕生日の写真が飾ってある。職員が掃除や換気を行い、清潔で臭気も無い。ラジカセで音楽鑑賞やテレビを見たりと本人が自由に居心地よく過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過活動膀胱で、足の運びの悪い方に、転倒防止のため、夜間のみポータブルトイレを使用してもらっている。		